



立嘉度譯

李仙碍建言書

第六章



114
A 4434
5



第二章

日本内國ノ華士族依舊上等ノ地位ヲ保
存シ得ベキ嚮導者タルノ策ヲ論ス

日本貴族ノ輩今日福田ヲ耕鋤スル者ノ愚ニ劣
カスルノミヲ以テ農家主計ノ適例ト見ルヘカ
ラス宜シク自ラ進取誘導シラ以テ國家ノ富源
ヲ起スヘキナリ又今日貴族輩ニ歸着セントス
ル派ノ職任ト現今我輩ノ眼目ヲシテ悲淚ヲ流
サシムルカ如キ不幸ナル農家ノ賤業トヲ以テ
通常ト同視スヘカラズ蓋シ今貴族輩ニ憐愍ス

飛翠集

大歳首

大正十一年四月贈

ル兵ノ新任ハ時勢ノ因テ止ムヲ得サル所ヨリ
 出ツ乃チ只第一章ニ揚ケタル盟約大國主トラ
 訂シ之レヲ固守シテ貴族輩ノ奮發スル処アラ
 シヲ希望スルノミ今日貴族輩ニ委託セントス
 ル所ノ新任ヲ以テ現今其輩ノ樂セ地位、降、タリト見做スヲ保
 ヲ得不余ハ乃チ其干戈ヲ以テ國家ノ富ミヲ保
 存スルモ又其才能ヲ以テ國家ノ富ミヲ振起ス
 ルモ敢テ大差アルヲ識認シ能ハサルナリ是レ
 社會交際學ノ本旨タル勞カヲ以テ富ミヲ起ス
 方法ヲ謀ルノ目途ニシテ近世武家ノ法令ノ

如キ封建ノ制アルハ復タ曾テ説カサルナリテユ
大名ク、小名マルキス、旗本コト等ハ其實將校指令官士
 官等ニシテ其給料ニ代ルニ土地ヲ與ヘ而ノ其
 采地ニ就テ特別ノ權利ヲ有セシモノナリ然レ
 尺今日ハ此ノ如キ方法ヲ以テ國家ヲ維持スル
 ノ時世已ニ過キ彼ノ上世士官ノ如キ不智ト虽
 尺勇ニ由ラ顯レ淺見ト雖トモ功ニ從ツ名アル
 時代モ亦既ニ往キタリ而メ學問勞力學術上ノ
 軍器及ビ農工商ヲ盛大ニシ國家ノ富ミヲ以テ
 國ヲ維持スルノ政體之レニ代レリ故ニ昔時學

校ノ武士今世ニ在リテハ甲鉄鎧ヲ築造セ以テ
 航海運用シ得ル普通ノ漁夫ニモ優リテ國旗ノ
 名譽ト國家ノ安寧トヲ保護スル能ハサルナリ
 夫レ文明開化ノ進歩ハ全車ノ走ルカ如ク常ニ
 回轉シテ其歩ヲ止メサルナリ一個進メハ一個
 ハ退クト虽凡是レ必ラス遲滞シテ進マサルニ
 ハ非ルナリ只外貌ノ空榮ハ漸次智識アル実理
 ノ為メニ減シ軍勢及ビ武器ハ百工ノ製出スル
 物品ト等シク亦忽チ時世ニ後ル、ナリ一工ノ
 從來製造セラ常産トセル物品ラシテ躬カラ翻

然トシラシレテ變更改良セシムル者ハ稀ナリ
 何トナレハ己ニ其製造所ノ為メ莫太ノ資金ヲ
 費シタルカ故ニ其力ノ及フ所ハ永久市場ニ於
 テ舊ノ聲價ヲ保タント希望スルハ是レ自然ノ
 理ニ由ラ然レハナリ故ニ競争ニ因リ止ムヲ得
 サルニ至リ始メテ旧製ノ物品ラシテ更ラニ新
 製ニ替ヘシムルノミ斯ノ如キ場合ニ方リテハ
 其益スル者敵手ニアルハ論ヲ俟タサルナリ何
 トナレハ敵手ニアルテハ舊慣ヲ破ルノ關係ナ
 ク又新製ヲ設置スルノ際其歩ヲ遲滞シ或ヒハ

妨害スルノ憂ナケレハナリ若シ夫レ享漏生ニ
 於テニールトル銃ノ發明ナクンハ法蘭西ニ於テ
 豈敢テミニール銃ヲ廢棄スベケンヤ然リ而シテ新
 發明ノ銃砲アリテヨリ苦心シテシヤスポー銃
 ヲ製造セリト雖兵事ニ於テ尚能ク享漏生ト
 匹敵スルヲ得ルニ及ヒシハ蓋シ數年ノ經過セ
 サルベカラナリシナリ夫レ日本ハ西洋各國ノ
 強盛ナル所以ノモノヲ目撃スル機會タル將軍
 ペルリ氏ノ浦賀ニ入港スル時ナクンハ豈斯ク
 ノ如ク夫レ速カニ今日ノ一新ヲ致スノ期ニ進

歩スベケンヤ而シテ其進歩ノ度固トニ急速ナリ
 ト雖兵事ニ於テ歐羅巴及ヒ米利堅ト并立スルノ歩
 ニ達セサルナリ蓋シ「ナポレオン」第一世ト雖兵
 夙ニ「フレグレッキ」ラゲレト日耳曼ノ世ニ出ツ
 ルアルニ非サレハ尚恐ラクハ其英名ヲ世ニ轟
 カスノ機期無カラシ夫ノ「ナポレオン」帝ノ
 兵術ハ遙カニ「フレグレッキ」ノ軍法ニ優リタリ然
 レ氏其功成リ名遂ケテ數年ヲ経ルニ及ンラハ
 復タ其兵術相廢レテ陳旧トナリ終ニ「サオン」モ
 ク日耳曼ノ世ニ出ツ氏時ノ將ノ兵法ヲ讓ラナルヲ得ナルニ至

レリ抑モ「モル」氏ノ兵制タルヤ農工商ノ間ハ
 ス國民ノ全カヲ結合シ其中ニ就テ軍隊ヲ編制
 セリ而メ士官ハ學術アル人民ノ中ヨリ之レヲ
 徵募セリ蓋シ此制ニ依レハ農工商ハ戰場行軍
 ハ際猶建築師屯營官或ハ輜重官ノ隊伍ニ於ル
 カ如ク國家ノ保護ヲナス勢力ノ部分ヲ有スル
 常ニ多キニ居ルナリ是レヲ以テ之レヲ考フレ
 ハ今日一軍隊ノ兵器糧食無クシテ敵ニ對シ戰
 地ヲ保有シ之レニ勝ツ能ハサルモノト等シク
 國家一日モ其物産ヲ盛大ナラシメスニハ自主

スル能ハサルナリ然ル時ハ今貴族輩其國家ノ
 富ヲ起スカ為メニ新タル職ニ就クモ亦敢テ
 其社會中ノ職ヲ賤スニ非ス況ヤ依然トシテ從
 前ノ高位ヲ保存スルニ於テラヤ士族モ亦昔日
 普通ノ兵士タリシ時ト等レク地位ヲ占メ此新
 職ヲ執ルニ當テハ豈敢テ普通ノ農夫若クハ職
 工ト謂フヘケシヤ此説ノ確正タルト實際ノ理
 論ニ於テ明ケシ近時ノ社會中農工商ノ業ニ於
 ルヤ實ニ其方法繁雜且ツ茫遠ニ涉ル猶英方老
 練ナル良將ノ指揮ナクシテ永陣ヲ張り其切ヲ

奏セント欲スルカ如キ若シ其老練ト勞カトノ
 補賛無クシハ之レヲ企テントスルモ實ニ無謀
 ニシラ且ツ無益ナルベレ是ニ由テ之レヲ觀レ
 ハ自己ノ勉勵或ハ父祖ノ遺財ニ賴テ其旧勲勞
 ノ結果タル大金ヲ所有スルニ至リシモノハ宜
 シク農工ノ産業ニ於テ老練ト勞カラ指揮スル
 ノ職ニ就クヘキハ當然ナリ此部類ノ人ハ國家
 ノ物産ヲ產出スルモノ、嚮導トモ云フヘク又
 財主トモ云フヘクシテ現今日本ニ於テハ華族
 ノ輩即チ是レナリ。士族ニ於テモ亦此新職ニ就

クノ際依然トシテ昔時ノ地位則チ華族ニ次ク
 ノ地位ヲ保有スヘシ然レバ農家ノ産業ハ兵士
 ノ職ヨリモ遙カニ優レリ蓋シ兵士ノ榮譽トス
 ル処アルヘキモ兵士タルノ日ハ戰場ニ勇奮シ
 重刀ヲ携帶シテ長途ヲ進軍シ其間乏シキ糧食
 ニ生命ヲ繫キ其他百般ノ大困難ト大辛苦トニ
 堪ヘサルヲ得ズ農ニ歸スレバ則チ生活上却テ
 容易ニシテ且ツ束縛ヲ受クル以テ近來鋤鋤其
 他農工ノ器械ノ發明アリテヨリ以降多ク此産
 業ニ従事スルモノ、困苦ヲ減少セリ故ニ今日

ニ於テハ恰モ馬車ニシテ遊歩スルカ如ク安座
 シテ田園ヲ耕鋤スルヲ得豈復タ泥土ヲ蹂躪シ
 或ハ手工ノ鋤鋤ヲ以テ土ノ大且ツ重ナル塊
 ヲ攪知スル等ノ如キヲ要スベケンヤ其他農家
 ニ屬スル諸勞力ニ就ラモ亦相等シク總テ器械
 ノ補助アリラ之レヲ省ケリ是レヲ以テ今日各
 業ヲナスニ於テジヨール鋤撒種器械及ヒ馬等
 過半人手ニ代レリ乃チ今日ノ農家ハ専ラ唯牛
 馬ト器械ヲ使用スルニ於テ其頭腦ヲ費ヤスノ
 ミ試ミニ米利堅ノ撒種器ト類スル書籍中第七

章ニ就テ見ヨ舊來ノ方法ヲ以テスレハ例ハ
 小麦ヲ作ルニ最初播種ノ時ヨリ收獲ノ時ニ至
 ルマテ終始常ニ人夫ノ注意ト手足ノ勞力ヲ要
 シタリ然レバ當今ニ至リラハ其播種及ヒ收獲
 トモ悉皆器械ヲ以テ之レヲ為レ其生熟ノ際之
 一ニ觸ル、ヲモ要セサルナリ其他ノ穀物ト虽
 亦亦然リ故ニ日本ニ於テハ未ノ播種ヲ除クノ
 外農業上以テ難事トスルモノアル事無シ蓋レ
 マジヨール園即チ貴族ノ名稱ニ同ジタルモ
 ノニシテ且ツ賣買ノ長子ニ與フヘキ不動産トモ
 フ義ナリ又貴族ノ長子ニ與フヘキ不動産トモ

云フ義ナリ故ニ我國ニテハ
 位田ノ委トナスヘキモノカ
 中米ノ培植ヨリ高サ
 スシテ從來既ニ斯ニ樹藝シ来ルモノニ任シ
 置クヲ可ナリトス

現今華士族ノ輩ハ只國家ノ富ヲ過半相有スル
 モノタル一事ノミヲ以テモ亦之レヲ擔負セサ
 ルヲ得サル新職任ヲ措テ自ラ忌嫌スル所トシ
 且ツ第一章ニ掲ケタル盟約ハ今日ノ家祿及ビ
 位置ヲ保存スルニ關係セサルモノトシテ之レ
 ヲ辭スルノ理由無カルヘシ何トナレハ此盟約
 ハ實ニ現今貴族輩ノ保持スル地位タル諸權理

ノ基礎ニシテ且ツ人民ヲシテ其地位ニ屬スル
 責任ヲ國家ニ尽ス所以ノモノヲ知ラシメサル
 ヲ得ナレハナリ然レバ若シ此等ノ盟約ヲシテ
 一ノ小説物ニ過キサラシメテ敢テ之レニ信ヲ置
 クヘカラサルノ理由ヲ主張シテ曰来ノ傳説ヲ
 廢棄スルニ於テハ華族輩ニ望ム所ノ極力奮發
 モ亦否々ノ理アルヘキハ論ヲ俟タス然リト虽
 氏若シ果シテ之レヲ廢棄スルトキハ則チ今日
 貴族輩ノ得ヘキモノハ只衰亡ノニ復タ他ニ得
 ル所ノモノ無カルベク一回此盟約ノ効驗ヲ廢

シ其傳説ノ信用ヲ失フニ至レハ華士族ノ有ス
ル權理ヲ保庇スルノ理源亦毫モ無カルヘシ且
ソ日本古代ノ國史ニ就テ大國主及ヒ天照太神
ノ遺訓タル一節ヲ除キ去ル時ハ則チ貴族ノ輩
ヲ以テ無用ノ長物トナシ忽チ之レヲ壓倒スル
ニ至ルヘシ而シテ一回此傳説ノ信用ヲ失フヤ貴
族ノ制相破ル、ノミナラズ既ニ佛國ニ於テ回
傳説ノ信ヲ失ヒタルノ際貴族及ヒ王家ノ壓倒
セシカ如ク皇統ト虽レ之レト共ニ衰亡ニ至ル
ベシ魯西亞、日耳曼ノ皇帝及ヒ英國ノ皇后ハ尚

今日ト虽レ佛國ニ於テ共和黨ノ蔓延スルヲ防
止セント希望スル。所以ノモノハ他ナシ蓋シ前
顯ノ殷鑒アルニ由テ然ルノミ何トナレハ若其
帝位ニ即クハ神授ノ權利タルノ理論ヲシテ真
正ナラサラシムルノ説一朝其國內一般ニ傳布
スルハ今頭上ニ冠リタル帝冕ハ忽チ安全ナ
ラサレハナリ
是ニ由テ之レヲ觀レハ只此書中ニ掲ケタル華
族輩筋ヲ其義務ヲ免カレント欲セハ則チ只自
殺スルノ一途アルノミ故ニ此義務ヲ居スニ於

ラ単ニ曰来ノ傳説ニ裁セタル貴族ト人民トノ
 間ニ結ヒタル同盟約ニ因ラナルヘカラス此盟
 約中貴族輩ノ負擔スヘキ責任タルヤ文事ニ於
 ルカ將夕武事ニ於ルカ抑宗教ノ事ニ於ルカ又
 凡俗ノ事ニ於ルカ未夕之レヲ考覈セスト雖氏
 時勢ノ變遷ニ依リ種々ニ變化セシ事ハ敢テ疑
 ヒラ容レサル所ナリ只其傳説ニ由ラ之レヲ考
 証スレハ貴族ノ地位ヲ占ムルモノハ時世ノ危
 急ニ方リ勉勵尽力以テ國家ノ幸福ヲシテ保護
 安全ナラシムルハ責任アリ而シテ現今ノ如ク空

手啖食ニシテ徒ラニ扶助ヲ受クヘキノ理由ハ
 曾テ其想像ニタモ亦ナサ、ル所ナルヘシ若シ
 果シテ其歲月ト頭腦トヲ農工高ノ實業ニ費シ
 國家ノ富源ヲ起スヲ得ラ初メテ其人民中ニ占
 ムル所ノ高位ノ責任ヲ尽スヲ得ルト認ル時ハ
 凌タ之レヲ否ム能ハサルベシ此時ニ當リテ貴
 族輩ノ請求レ得ヘキモノハ此新業ニ就クノ際
 自ラ嚮導者タラニ事ヲ希望スルアルノミ是レ
 既己ニ陳述セルカ如ク時勢ノ由ラ然ラシムル
 所以ナリ然レ氏此輩ヨシテ嚮導者ト為シ其功

ヲ奏セシムルニ方リテハ方ニ考按スヘキ事一
 事アリ西洋各國及ニ米利堅ニ於テハ資本金ヲ
 有スルモノハ亦各老練アリ即チ富ミヲ起スノ
 際ニ於テ能ク勞カヲ有益ニ使用スルノ法則ヲ
 知ル是レナリ何トナレバ是等ノ人々ハ概シテ
 一時躬ヲ其業ニ就キシモノニシテ其實農工商
 中最モ熟達奏功ノモノト云フヘシ日本ニ於テ
 ハ之レト異レリ千八百六十八年革命以前華族
 輩ハ農工商ノ勉勵及ニ勞カヨリ生出シタル物
 産ヲ以テ空シク其生命ヲ怠惰ニ保チ其謂ル銀

行ノ金庫タル金銀運用ノ器ニシテ之レカ為メ
 ニ金銀ヲ累積スルカ如ク思想シテ其富ヲ生ス
 ルノ方法ヲ知ラス且ツ其方法ヲ推問探知セン
 ト慮リシ事未タ曾テ之レ非サルナリ且物産ヲ
 生出スル人モ亦自ラ盛大ナル貿易ヲ管理スル
 ノ規定ヲ學ブノ地位ニ非サリシナリ加之西洋
 及ニ米利堅商賈ノ事ヲ知スルノ際常ニ苦シム
 百事ノ繁雜困難ノ如キモノ及ニ之レヲ習シテ
 得タル所ノ經驗老練ノ如キ事實ハ亦未タ曾テ
 知ラサリシナリ是レ千八百六十八年ノ革命以

前ハ此レ等ノ事ニ注意シ頭腦ヲ煩スヘキノ機
 會ナカリシニ由テ然リ當時ノ農家ハ自動機
 如キ秋狀ニシテ各其業ニ從事シ毫モ心勞ヲ煩
 ハス等ノ事ナク只其主長ノ年貢及ヒ我カ自用
 ヲ満足スルカ為メニ若干ノ米穀ヲ産出セサル
 可ラサルヲ知リ其旧慣ノ法術ニ随テ其穀高ヲ
 産出スルノミホタ曾テ彼歐羅巴或ヒハ米利堅
 農家ノ腦髓ヲ煩ハスカ如キ其收護物ヲ遠隔ノ
 市場ニ運輸シテタケテ利潤ヲ得ントスルカ如キ
 思考ヲ起レ或ヒハ心志ヲ為勞スルカ如キ事ア

ラサルナリ故ニ通例ヨリモ多量ノ石高ヲ産出
 セヨト命セラルルニカ或ハ數年來慣習セル道ヨ
 リ特別ノ方法ヲ以テ其收護物ヲ頒賣セヨト命
 セラル、ニ非サレハ復タ敢テ此等ノ事ニ就テ
 想像ヲ起サレシナリ其他百工ニ於テモ可大
 畧相然リ之レカ之レカ為メニ外國ノ需要ヲ先
 見スルヲ要マス又競争ニ勝ントスルノ物産ナ
 ク又其製造ヲ盛大ニ為シ若クハ競争ニ勝ンカ
 為メニ自ラ得ベキ通運非常ノ便益アル事ナシ
 故ニ物産ノ開達ヲ促スノ道ハ極メテ狹隘ナル

區域ニ制限セラレタリ加之人各徒ラニ其專業
 ラ有ス是ヲ以テ大製造所中數多ノ課業ヲ為ス
 ニ方ツテハ各課教員ヲ要シ又其課中心自終身
 預定シタル區々ノ細業ヲ專有スルノミ蓋シ此
 習俗タルヤ獨リ人情ノ上ノミニ非ス其土地ニ
 於テモ亦自ラ區域アリ及令ハ此國ハ黃銅皮國
 ハ陶器甲ハ紺糸乙ハ漆器ト制限セラル、カ如
 ク各自特別ノ土產アリ而シテ其地ノ領主ハ只農
 工ノ物產ノミナニス出產人自己ノ身ト虽凡領
 内ヨリ出行スルヨリ禁スル權アリテ已ニ他國ニ

出ツルヲ禁セシ例屢之アリ故ニ各家各社各郡各
 州始終擔負スルモノ僅カニ片小ニシテ及令特
 別ノ分業アリテ其家產ヲ變更改セントスルノ
 意望アリシモノモ亦之レヲ為ス、以テ難事ト
 ナセリ於是乎其之レヲ變更セントスルノ意望
 ヲ表セシモノ未タ曾ラ之レアラサルナリ何ト
 ナレハ其需要ノ由テ來ル所ノモノ、為メニ自
 ラ常ニ其專業ノ物產ヲ座右ニ備ヘ置クノミニ
 シテ生計上各種ノ必要品ヲ欠ク、無キヲ知リ
 テ自ラ其職ニ足レリトシ復タ他ニ求ムルノ心

ナケレバナリ蓋一實ニ目下欠ク可ラサル事ヲ
 除クノ外夫レ斯クハ如ク萬件ニ空心ナルノ一
 因ハ當國ノ氣候穩和ニシテ土地豊饒ニルニ安
 シ自然ハ恩賜ニ及シテ種々ノ方法ヲ設クルハ
 却テ其幸福ヲ降ス所ノ皇天ニ對シテ之レガ尊
 崇ヲ失フトノ僻說侵潤シ以テ人民中ニ薰陶ス
 ルニ由テ然ルナリ其間其君長ノ奮發ト嚴命ト
 ニ因リテ僅カニ此空心ヲ破ルモノアルノミ則
 テ官殿ヲ建築シ高貴ノ賓客ヲ招待シ或ハ君長
 ノ男女婚姻等ノ言ニ際シ特別或ハ非常ノ勞役

ヲ要スル事是レナリ此勞役ト雖氏亦僅カニ通
 常ノ事ヨリモ以テ多クノ勞カト老練トヲ要
 スルノミニシテ彼ノ貿易上ニ至テハ毫モ非常
 ノ心苦ヲ費スカ如キ勞役アルト無シ而シテ非
 常ノ需要ニ方リ積年ノ經驗ヲ顯ハスノ機會ア
 ルモ尚概シテ只工業上ノ經驗ノミニシテ僅カ
 ニ其職工上ニ於ル自己非常ノ老練ト勞カラ顯
 ハシ其製造品ノ養名ヲ得ント欲スルニ過キサ
 ルナリ夫レ斯クノ如キノ情實タルニ由テ彼ノ
 勞苦ニ堪ユヘキ農夫及ビ老練ナル職工ヲ得ル

ニハ良便益アリト虽氏若シ此善良ナル高買ヲ
 得ント欲セハ則チ大ニ彼ト及對セル所ノ形状
 ナリ故ニ今日本ニ卓越ナル農夫巧手ニハ園戸
 賞賛スベキ職工及ビ高賈ノ内ニ於テモ吟唎ナ
 ルモノアリト雖トモ近時ノ高尚ナル農工商ノ
 學術ニ熟練シテ華士於ノ顧問トナルヘキ經驗
 アルノ人物ナク皆ナシラ外國ヨリ聘迎セサ
 ルヲ得サルナリ
 或ハ日本人ニ於テ外國ノ熟練シタル人物ヲ要
 マサルノ点ニ進マカ如キ經驗ハ忽チ習得シ能

フヘシト云フハ愚モ亦甚シ抑モ農工ノ業ニ於
 ル其經驗ト老練及ビ質考ノ事ニ至ラハ能ク
 学校ノ机工ニ於テ習ヒ得ベキモノニ非ス其衆
 ニ勝レ好結果ヲ顯ハスモノハ只多年ノ實際ヲ
 經ラ而メ後チ之レヲ身ルノニ西洋各國ニ居住
 セシ者ハ高名ナル書生或ハ教師ト老練ナル實
 驗者トノ間ニ於テ其事ヲ執ルノ際大ニ差異ア
 ルヲ知ルナリ則チ理ヲ以テ推ス時ハ學問ノ研
 究ヲ經ラ自得シタル所ノ知識ト多年經驗ニ由
 テ自得シタル老練トハ兩ナカラ無カルナラサ

ルナリ故ニ今漸ク法律理学經濟物産或ハ商
 法ノ諸学ヲ修メシ若年輩ノ如キハ其紙上ノ空
 論ニ於テハ遙カニ老練ナル實驗者ヨリモ知識
 優ルノ如シト雖トモ必ス法律家舎密家政事家
 建築家製造家或ハ商人ニ非サルナリ然ラハ則
 テ最モ英名ナル教師ハ其生計上實際ノ事業ニ
 於テ始終養果ヲ結ハサルヲ得ス而ノ我輩其然
 ラサル所以ヲ知ル蓋シ文学或ハ法律ニ高名ヲ
 得タルモノハ真理ヲ明カニシ諸技術ノ理由ヲ
 論スルニ巧ニシテ世上一般敢テ之レニ抗論ス

ルモノ無キノ權勢ヲ有セリ然レ氏其一ノ問題
 ニ就テハ夫レ斯クノ如キ至聰至明ナルモノモ
 其他ノ百事ニ至リテハ悲歎スヘキ不智ナル事
 常ニ相属セリ是ニ於テヤ其一般ノ情實ヲ詳説
 之レテ論及シテ其實際ノ事實ニ涉ラサルヲ
 得サルニ方ツテハ大ニ其趣旨ヲ失スルモノ必
 ナカラズ抑モ從來高名ナル國家ノ參議タリシ
 文學家及ヒ法学家ノ功績ヲ顯ハスモノハ其專
 門科學問ノ功ヨリモ却テ大家或ハ豪族ノ後見
 ニ托シ或ハ廣大ナル地所ノ管理等ヲ為シテ得

タル經驗ノカ多キニ居ル故ニ最モ高名ナル古
 今未曾有イ法律家「シエーチ」氏ニシテ且ツ終身
 心苦ヲ碎キシト虽氏尚ホ且ツ終ニ佛國ノ為メ
 ニシレカ政體ヲ確立シ能ハサリシナリ然ルニ
 大将「ボナバルテ」ハ未タ曾テ法律ノ学ヲ修メサ
 リシモノト雖氏夙ニ先哲「シセロ」ノ生命ノ主君
 ト唱ヘシ歴史ニ就テ学ヒ之レヲ斟酌シ且ツ大
 業ヲ謀ルノ中其面接スル人々ニ就テ習得シ終
 ニ其同僚ト商議シ忽チ法律中ニ含メル最モ
 困難ナル疑問ニ注解ヲ附セリ之レ何等ノ理由

ニ因テ然ルカ蓋シ「シエーチ」氏ハ單ニ席上ノ法律
 學者ニシテ只想像ヲ以テ事物ノ性質或ハ其
 理由ヲ發見セント尽カシタルノミ故ニ未タ曾
 テ自ラ經驗ヲ經テ習得セズ生活上實際ノ事情
 ニ疎ナリシ故ナリ英吉利孳漏生法蘭西及ニ合
 衆國ノ製造及ニ貿易ニ於テ盛大ノ國トナリシ
 ハ敢テ教師ノ傳習ニ因ラ然ルニ非ス初メニケ
 國ノ今日工商ノ盛大ヲ極メシハ其國ノ中心ニ
 導キテ佛國ノ最モ貴重スベキ老練者ヲ群集セ
 シムルノ機會アリシニ根據スルノミ抑ニ其原

因タルモノハ千六百八十五年中佛國皇帝「ル
 イス」第十四世カ其政治上ニ施シタル極力一致
 ラシラ宗教ニ及ホサントノ意ニ盡感シプロラ
 スタント教ヲ信仰スル諸人ヲシテ其信仰ヲ誓
 拒セシメサレバ國地ヲ追放スヘシトノ高名ナ
 ル派謂「ナント」ノ布告ヲ癸セシニ係ルナリ此布
 告ニ從順スルヲ拒ミテ五萬戸（追日其余ニ至ル）
 ノ家族其家ヲ離レ佛國工業ノ奧秘ト其家財ト
 ヲ擄帶シテ和蘭英吉利瑞西及ヒ日耳曼ノ諸國
 ニ亡命セリ此時各國ニ於テ其亡命人ヲ待遇ス

ルヤ最モ懇篤ヲ極メ生計ノ方法立タサルモノ
 ニハ資本金及ヒ便利ナル建物ヲ貸與シ一時ハ
 龍頓中ノ一全區ハ悉皆結水晶及ヒ鋼錶ノ製造
 ニ老練ナル職人ヲ以テ充滿セリ此時ヨリ英國
 ハ製造物ニ於テ第一等ノ地位ヲ占ムルニ至リ
 又別林ハ一大市街トナリ今日ニ至ルマテ耕鋤
 セサリテ草漏生ノ國地ヲ開墾スルニ至リ而メ
 其亡命人ノ内フレテレッキ大帝ノ内閣ニ權勢ヲ
 振フニ及ビ始メテ草漏生ハ歐羅巴中ニ於テ一
 強國ノ名ヲ得タリシナリ其後佛國ニ於テ旧來

ノ製造及、貿易ノ繁盛ヲ回復セント謀リシ時
 ニ方リテ曾テ當時追放セシ匠工ノ歸着セシ國
 タノ人民ニ就テ我カ職工ノ歸着シテ再々製造
 所ノ指揮ヲ執ラン事ヲ依頼スルニ至レリ猶今
 日ト虽凡魯西亞及ヒ合衆國ニ於テハ其製造物
 及ヒ細工物ノ為メニ技師或ハ技手ト
 ナリテ外國人ノ斯ニ從事セルモノ數多アリ是
 レ蓋シ製造細工ノ彼國々ニ入りシヨリ既ニ數
 年ニ終ルト虽凡猶其補助アラズンバ之レガ繁
 盛ヲ為ス能ハサルニ由ラ然ルナリ魯國ニ於テ

ハ法律上ホタコレニ充分ノ自由ヲ與ヘサルヨ
 リ人民尚安全ノ意少ク從テ他人ノ該國內ニ移
 住スル者稀ナリ然レ凡尚今日ニ至ルマテ技術
 アル外國人々ヲシテ永ク斯ニ居住ヲ構ヘ該國
 ニ入籍セシメン事ヲ透導スルヲニ致々タリ是
 レ則チ合衆國及ヒ魯西亞ノ物産速カニ盛大ヲ
 致シ而シ今日ノ好結果ヲ見ル所以ナリ既ニ合
 衆國ハ數年ヲ出テスシテ英國ト競争スルニ至
 ルヘシ而シ魯國モ亦從來製造貿易トモニ英國
 ノ專古壓制ヲ受ケリト雖トモ夫レ之レヲ免カ

ル、ノ日方サニ近キニアルヘシ若シ此兩國ヲ
 シテシレト及對セル針路ヲ取ラシメハ則チ今
 日物産ノ蕃盛ナク貿易ノ専利無ク鉄道ノ便利
 ナク又從ツテ各種ノ通運ナク其實國家ノ權勢
 及ニ富饒モ亦之レナキノシナラス初癸ノ企テ
 ラ為スニ要用タル金銀モ徒ニ無益ノ試験ニ費
 ヤセシナルヘシ
 今ヤ日本ニ於テモ英吉利法蘭西合衆國及ニ魯
 西亞ノ國々ニ倣ヒ曾テ各其國々ノ鴻益ヲ起サ
 ンカ為メニ奉行シタル事業ヲ起サレテラ希望

スルナリ然リ而シ當國開化ノ進歩ヲ妨クルモ
 ノハ外貌ノ自負自得ヨリ甚タシキハナシ蓋シ
 其外貌ノ自負自得ハ獨リ國家ノミナラス一人
 一己ノ為メニスト雖トモ尚大害タルモノニシ
 テ實ニ今日ノ日本ニ取テ以テ危篤ナリト謂フ
 ヘキノミ若シ此一言ラシテ疑フモノアラハ試
 ミニ近時二三年ノ事蹟ヲ探知セヨ其自ラシレ
 ラ證明スルニ足ルモノアラシ後令現今兩國ニ
 在ル教師等カ今日為シ得ヘカラサル特別非常
 ノ勉強及ビ尽カノ功ヲ以テ今日期シ能ハサル

數人ノ若輩ヲシテ能ク其學科ヲ完修セシメ而
 ノ其若輩等ハ國土ノ地理、地質、人民ノ氣質、國語、
 風俗、慣習及ヒ其作業ヲ熟知シ加フルニ近時ノ
 農業及ヒ各種ノ工業ニ就テ學術及ヒ實際工ノ
 知識ヲ共有セシメマシヨラ、園ノ如キ廣大ナル
 物産產出ノ業ヲ管理スルニ於テハ最モ才能經
 驗アル外國人ノ有セサル非常ノ才智有ラシム
 ルト虽ハ猶外國人ノ補助ヲ仰カサルヲ得サル
 ナリ、何トナレハ例ヘ其人ハ英才非凡ト雖トモ
 尚^ト其實際經驗ノ知識ニ至テハ全完ト謂フベカ

ラズ且ツ斯クノ如キ重大ノ責任ヲ負フルニ方
 リテ尚^ト歐羅巴米利堅ノ農高工專門科学校ニ入
 リ總テ其産業ニ関スル技藝ニ涉ルノ學識ヲ完
 修セシ者ニ及ハサレハナリ而メ其學識アルモ
 猶且ツ歐米ニ於テハ最初ヨリ能ク其人ニ廣大
 ナル建物ノ指揮ヲ委託スルコト未タ曾ラ之レ
 有ラサルナリ故ニ是等ノ職ニ任スルノ以前豫
 シメ其輩ニ比スレハ未タ其學識ノ半ハニ至ラ
 スト虽ハ只其産業ニ於テ多年經驗ノ力ニ賴ラ
 何ナル高名ノ教師ニ曾テ其門弟ニ教授シ能

ハナル所ノ實業ヲ得タル老練者ヲシテ補手タ
 ラシメ數年間之レヲ附屬トナサ、ル可ラス是
 ニ由ラシレテ觀レハ經驗ノ要用タルヤ富
 ヲ累積センカ為メニ其物産ヲ蕃殖スルニ於ル
 ノニニ非ス其物産ヲ賣捌クニ於テモ亦其功驗
 最モ多キニ居ルナリ而シテ又此物産ヲ賣捌クノ
 商業タルヤ殆ント其物産ヲ蕃殖スルヨリモ亦
 以テ難シトス後令政府ノ試驗其田園ニ於テ得タル
 學問上ノ知識宏大ナリト雖氏又歐羅巴或ハ
 未利堅ニ於テ數年ノ學問ヨリ得タル見聞アリ

ト虽トモ且ソ自國ノ教師ニシテ而カモ其適任
 ノ人タルヘキモノト雖氏尚恐ラクハ其功ヲ奏
 スル固ニ多カラサシメテ
 若シ夫レ民法確立ノ事ニ就テハ予カ曾テ第四
 十二号ノ建白書ニ述ヘタル如ク果シテ國內ノ
 習慣法ヲシテ今日ニ適スル新法ニ改正セシメ
 公正ナル裁判所ヲ設立スルノ議ヲ採用ナルニ
 及ンテハ日本ハ必ス魯西亞ノ右ニ出サルモ忽
 チ同國ト并立スルニ至ルベシ是ニ於テ初メテ
 財本或ハ學識アル者及ヒ實地有功ノ者ニシ

テ日本ノ戸籍ニ入ラント欲スル為メニ最モ嫌
 忌シタル防害ヲ除キ以テ日本ノ戸籍ニ入ルヘ
 ク随テ現今莫太ノ給料ヲ費ヤサ、レハ敢テ得
 ヘカラサル所ノ必用ノ智識者ヲ國內ニ移植ス
 ルニ至ラン然ラハ其人自己ノ家屋ニ就テ恰カ
 モ一家族将来ノ幸福ヲ祈望スルト等シク永久
 不朽ノ愛國心ヲ以テ其カラ國家ニ尽ス所アル
 ヘシ若シ果シテ此尽カラ得ルニアラサレハ蓋
 シ日本ノ開化ニ進歩スルハ殆ント遅緩ニシテ
 今日此國ノ抗敵タル支那ヲシテ後部ニアラシ

ノ日本獨リ亞細西州中ニ富饒及ク權勢ヲ張ル
 ノ時自カラ来リタル天授ノ好機會ヲ失ハシノ
 ミ抑モ英吉利法蘭西魯西亞及ク合衆國ノ今日
 歐羅巴州及ク亞米利加州ニ於テ卓然トシテ他
 國ノ上ニ位スル所ノ以テモノハ他ナシ夫レ斯ク
 ノ如キ好機會ヲ失ハサリシ而已然ラハ則チ日
 本モ亦此機ニ乘シテ駸々乎トシテ更ニ開化ノ
 歩ヲ進ムル時ハ必ス夫ノ國々ノ如ク亞細西州
 中ニ卓越タル地位ヲ占ムルニ至ルベシ是レ其
 國ノ地勢人民ノ才智愛國心及ク開化ニ進歩セ

ントノ渴望心ト今日人民関化ノ度トラ高量ス
ルニ實ニ天賦ト謂フモ亦敢テ妄言ニアラサル
ニ由テ然ル所以ナリ

